



日本SPIコンソーシアム 10周年記念イベント

パネルディスカッション

司会
岡田 公治

テーマ・要領説明

◎テーマ:

ソフトウェアプロセス改善のこれからを描く！

◎これからの流れ:

- － 自己紹介(司会、パネリスト)
- － 討論(1.今までの10年、2.これからの10年、3.ビジョニング)
- － まとめ

◎Q&Aについて:

司会者がパネリスト、会場の皆さんに意見や質問を求めます。
発言を希望される方は、挙手にてお願いします。ご所属、お名前
もお願いします。討論時間は約60分です。

自己紹介

◎司会:

－岡田 公治 株式会社 日立製作所

◎パネリスト

－阪本 太志 東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社

－由井 美恵子 日本電気 株式会社

－中村 淳 株式会社 NTTデータ

司会: 岡田 公治 日立製作所

- **学生時代は、機械系CAD (Computer Aided Design) を専攻**
図面/形状処理だけではなく、
設計者 (知的創造者) を、計算機 (IT) で支援したい。
- **多様な製品の設計行為について知りたい: 日立製作所**
設計支援技術を研究したい: 生産技術研究所 に職を得る
- **製品開発現場の支援**
設計者個人の支援だけでなく、プロジェクト/チームの支援を。
計算機 (IT) による支援以前に、適切なプロセスが鍵。
- **製品開発 (ソフト/ハード) のプロセス改善活動の推進**
製品開発プロセスのベストプラクティス集として CMM/CMMI に着目。
JASPICに、その発足直後から参加し、CMMI翻訳活動に参画。
CMMI 認定リードアプレイザ、認定インストラクタ。

パネリスト: 阪本 太志 東芝デジタルメディアエンジニアリング

【プロフィール】



- 1987年 東芝ソフトウェアエンジニアリング(株)入社
業務用及び家庭用ワードプロセッサの開発に従事
- 1998年 BSデジタル放送開始に向け、BSデジタルテレビ開発
- 2000年 東芝デジタルメディアエンジニアリング(株)発足
- 2001年 携帯電話、車載テレビ、音楽プレーヤー等のPM担当

- 2004年 CMMI入門コース受講でCMMと 乗松さんに出会う
- 2005年 CMMレベル3アセスメントに参加し・・・Company SEPGへまさかの転身
SEPG Japan 2005参加で、JASPICと 乗松さんに出会う

- 2006年 JASPIC研究員に志願し、SPI Japanスタッフへ、乗松さんに出会う
このとき、一般発表で賞をいただき人生がさらに変わる・・・

- 団体活動等: 日本SPIコンソーシアム 運営副委員長・東芝運営委員
日本科学技術連盟 ソフトウェア品質研究会 主査
情報処理推進機構 SEC プロセス改善WG委員
NSPICE. NET会員 AUTOMOTIVE SPICE Provisional Assessor

パネリスト: 由井 美恵子 日本電気

現在の業務

- CMMIを用いたSW開発プロセス改善を推進
- 全社のSW標準化活動を推進

業務履歴

～2006年5月	NECエレクトロニクスにて、携帯電話向けミドルウェア開発およびプロジェクト管理、事業部SEPGを担当
2006年6月	NECに移籍
2006年6月～2008年3月	DRBFM※のHWの現場改善支援活動を展開
2008年4月～現在	プロセス改善およびSW標準化の業務を担当

JASPICとの関わり

2008年	JASPIC研究員登録
2008年～	例会推進チーム参加
2009年～	SPI Japanプログラム委員
2011年～	アセスメントノウハウ分科会参加

※DRBFM: Design Review based on Failure Modeの略語。トヨタ自動車が提唱するGD3(Good Design, Good Discussion, Good Design Review)の3つの要素からなるトラブル未然防止活動)の一環として取り組まれるFMEA手法

パネリスト: 中村 淳 NTTデータ

- 学生時代は文系（経済学部）で、SEになるなんて思ってもいなかった。
- 入社から10年間は、官公庁システム（ちょっとだけ金融系システム）の開発に従事。（SPI・CMMIに全く無関心）
- 入社からちょうど10年経った時に、CMMIレベル4を目指す組織に異動し、現場SEPGとなる。（SPI・CMMIとの初めての出会い）
- PPMの構築に苦闘の日々。（CMMIの強烈な洗礼を受ける）
- 2年弱後に、なんとかCMMIレベル4を達成。翌年、CMMIレベル5を達成。（CMMIの意義が少しわかってきた）
- 現在、自担当の開発プロセスの抜本的な改革を目指し苦闘中。
- 2010年にJASPIC研究員となる。（ペーペーです）

討論テーマ1:今までの10年

狙い:JASPICの活動を知り、活動により得られるメリットを感じ取っていただきます。

内容:JASPICの活動10年間を振り返って、

- 分かった事/いまだに分からない事
- 変えられた事/変えられない事

JASPIC合宿で出た意見のご紹介:

何が分かったか？

- 各社のSPI活動状況、活動事例、成功する進め方、ノウハウ(べし、べからず)
→JASPICで意見交換することでSPI活動の理解が深まった
- 現場と乖離した活動は失敗すること。また、その失敗を共有し反省できていない
→プロセス改善を現場で行うことが難しいこと、支援の難しさも
- CMMIのモデルの内容、IDEALによる改善の進め方
→CMMIなどのモデルは使い方により成功や失敗にわかれる、モデルの限界

何がいまだに分からないか？

- 他の会社の事情がわからないので、困っていることが共有できない場合がある
→プロセス改善に成功している会社の工夫、プロセス以外の文化やリーダーシップも
- SQAの効果的、効率的な活動方法、アジャイルでの品質管理方法
→品質に対してかける費用について発注元へどう理解してもらうか
- CMMIモデル(開発向け)の今後の姿、新しいプロセスモデルをどう考えるか

JASPIC合宿で出た意見のご紹介:

何を変えることができたか?

- JASPIC会員企業におけるプロセス改善意識改革
 - 現場説得時に引き出すプロセス改善の事例が増えた、人脈が広がった
- 改善活動の仕組みが整備でき、活動そのものが理解されるようになった
 - ソフトの重要性を理解してもらえることができた
- CMM(I)を含めた科学的手法によるソフトウェア開発力の基盤強化(への貢献)
- 環境の変化が起こっている
 - 製品開発において、ハード主流だったのがソフト重視になってきた

何をいまだに変えることができていないか?

- 改善内容が新プロセスとして定着すること(すぐに形骸化してしまう、実践されない)
 - プロセス改善活動に対する抵抗感をもつ(当たり前だと考えていない、やらされ感を持つ)人が多い
- 厳しいリソース制約のある組織でのプロセス改善
 - 経営層のソフトウェアプロセス改善への長期的コミットメント
- ソフトウェアの修正は簡単!との神話(ハード技術者、企画、営業の思い込み)
- 硬い制御から柔らかい制御へのパラダイムシフト
- プロセス改善の裾野を広げること(SPI関連のどのイベントに行っても知った顔だけ)

討論テーマ2:これからの10年

狙い: 本日のJASPIC10周年イベントに参加された方へ、“来てみたいなあ”、“うちの若手にも参加させたいなあ”と、是非思っていたただけたら幸いです。

内容: 今後10年間を見据えて、

- JASPICへの期待
- 方向性への意見として、
「何をすべきか?」「JASPICに期待することは何か?」

JASPIC合宿で出た意見のご紹介:

SPI活動として何をすべきか?

- 開発フェーズにおけるプロセス改善だけでなく、もっと上流フェーズでのプロセス整備
→開発部門だけでなく、営業や商品企画の部門を巻き込んだプロセス整備
- SPI活動(ソフトだけでなく、ハードやシステム開発も含んで)が開発活動/組織活動として当然のように行われるようにするための活動
→プロジェクトメンバ(開発者)をもっと巻き込んだ改善活動
→現場における改善活動の良い点を他の現場へ伝える
→現場を変えながら組織文化を変える視点を持つ
- 経営に直結するようなSPI活動の定義、改善に対するトップの理解を得る
→プロセス改善による日本の競争力強化、コスト面よりスピード/サービス面で
- 海外のSPI活動組織/メンバとの交流や情報交換の活性化
- SEPGの適格者の要件を決める
→ソフトウェア開発のプロセスを十分理解している、改善意欲がある 等

JASPIC合宿で出た意見のご紹介:

JASPICに期待することは何か？

●今までの活動の継続

→現在の高レベル維持、事例報告、分科会、外部有識者招聘、海外SPI紹介

●発展拡大(CMMI中心からのストレッチ)→そのためには

→活動内容を知ってもらう

■他社事例。例会での資料を持ち帰って、役立ったといえるものが欲しい

■ホームページ、グループウェア、広報活動の改善

→会員企業を増やす

■非会員へのアピール、個人会員制度の導入

→マスコミを利用して存在感を高める(CMMの10年間、分科会活動、ビジョンなど)

●社会貢献

→SPI活動の共通課題に対してJASPICとして提言、存在感を知らしめる

→実践に基づく事例、知見(課題はブラッシュアップ)

■例:同じ計測ツールを使って測定。統計的データ、プロセスを作るなどの底上げ。

→教育での社会貢献

■大学への出前講義、インターシップで学生受け入れの架け橋、JASPIC大学

パネリスト:阪本 太志 (さかもと たかし)

(運営の立場で恥ずかしながら…)

□ JASPICへの期待

- ・ 認知度アップ

→日本を代表するプロセス改善団体として

多くの方に知っていただき多くの方に利用いただきたい

□ 方向性 「何をすべきか？」

- ・ JASPICの特色を発掘して育てたい。特色って…

CMMI?、企業?、改善のデパート巨大・大勢・多種?

- ・ プロセス改善の敷居をもっと下げたい。JASPIC不要…

セミナー?、人?、改善技術?、交流?、何と戦う?

→成果物として「残る物」を、提供できれば良いな。

パネリスト:由井 美恵子

■ 現場にプロセス改善提案を聞いてもらえるようにするための手助け

① 知名度アップ

→JASPICで社外活動を行うことで、交流を広げる

② 現場との信頼関係を築く

③ 社外の事例を多く知っている

→JASPICの例会、分科会でお悩み相談すると同じようなことで苦勞している人がいる

■ JASPICの活動に今後期待すること

① JASPICの認知度アップ

② 各イベントの発表データの集計、分析

パネリスト:中村 淳

【JASPICに期待すること】

➤ プロセス改善推進者に対する教育

プロセス改善に関する体系だった教育は存在していないように感じる。(プロセス改善を推進するのに必要な知識は、CMMIだけでなく、「思考法」「周囲の巻き込み方」「ソフトウェア開発方法論」等、多岐にわたると思うが、体系的に解説する場はないのでは？そして、JASPICにはそれができる力があるのでは？)

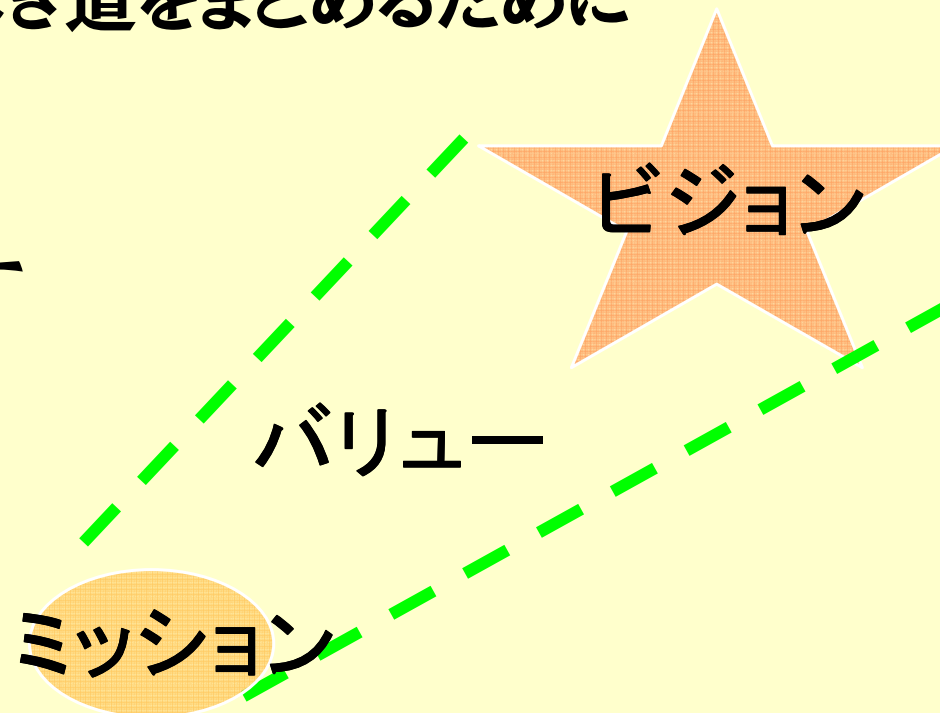
➤ 経験・知識の伝承

上と似ているが、「有識者間の切磋琢磨」だけでなく、「有識者の経験・知識を経験が少ない人に伝承する場」としての機能も持っていてほしい。

討論テーマ3:ビジョニング

狙い:JASPIC (SPI活動)の進むべき道をまとめるために
方向付けをおこないます。

内容:ビジョン、ミッション、バリュー
「JASPIC (SPI活動)の
進むべき道」は

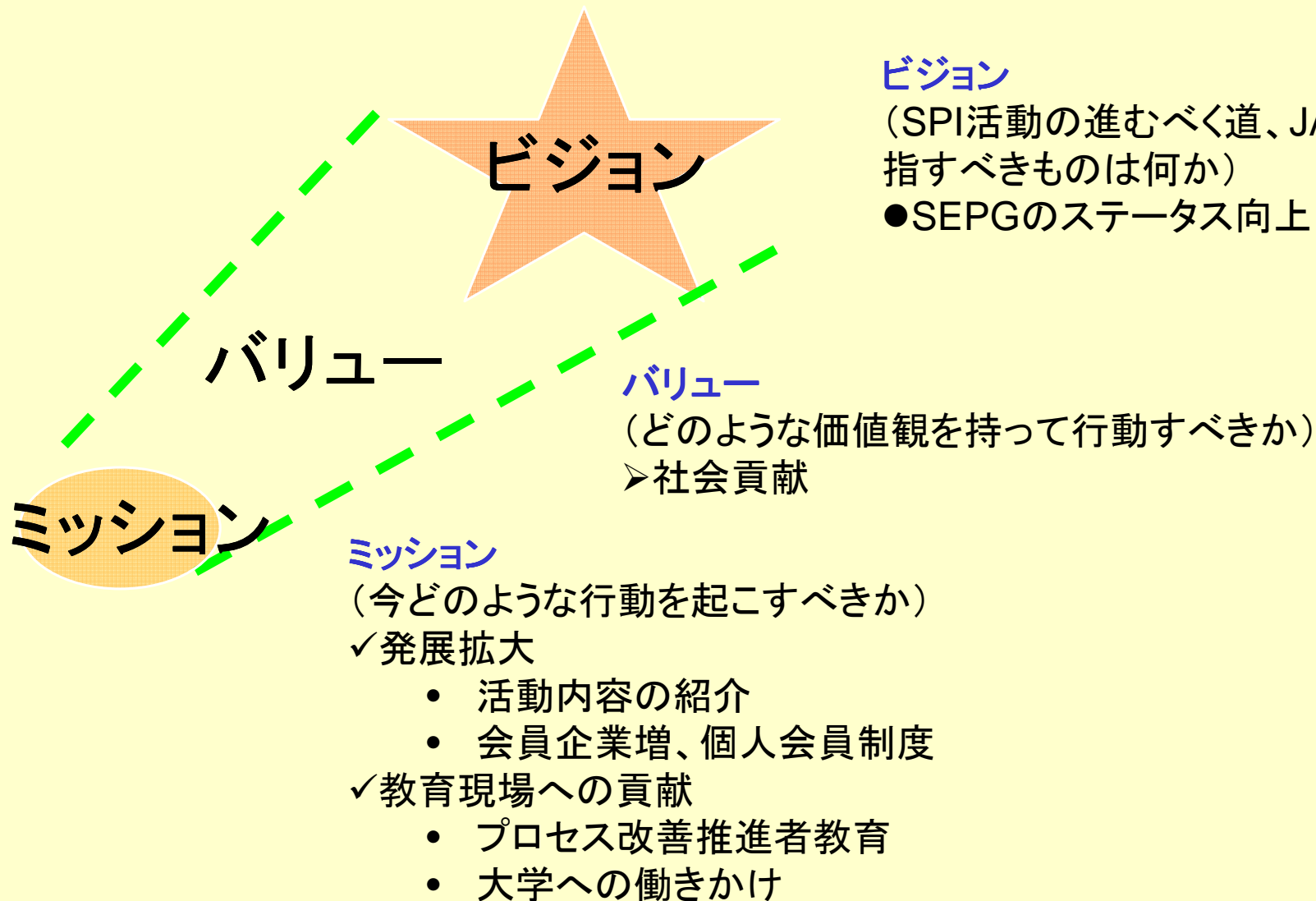


ビジョン:目指すべき方向性、将来あるべき姿

ミッション:ビジョンを実現するために起こすべき行動

バリュー:ビジョンに向かって行動を起こす時の行動規範
言い換えると、価値観、コアバリュー、座右の銘
(出典:ビジョニング、塚田修著、日経BP)

JASPIC合宿で出た意見からビジョニングすると:



まとめ

パネルディスカッションの記録を見ながら総括(方向づけ)をしていきます。

(参考)

◎今までの10年:

－分かったことは、

- 各社のSPI活動状況、活動事例、成功する進め方、ノウハウ(べし、べからず)
- 現場と乖離した活動は失敗すること。また、その失敗を共有し反省できていない
- CMMIのモデルの内容、IDEALによる改善の進め方

－今だに分からないことは、

- SQAの効果的、効率的な活動方法、アジャイルでの品質管理方法
- CMMIモデル(開発向け)の今後の姿、新しいプロセスモデルをどう考えるか

－変えられたことは、

- JASPIC会員企業におけるプロセス改善意識改革
- 改善活動の仕組みが整備でき、活動そのものが理解されるようになった
- CMM(I)を含めた科学的手法によるソフトウェア開発力の基盤強化(への貢献)

－今だに変えられていないことは、

- ソフトウェアの修正は簡単!との神話(ハード技術者、企画、営業の思い込み)
- プロセス改善の裾野を広げること(SPI関連のどのイベントに行っても知った顔だけ)

(参考)

◎これからの10年:

—SPI活動としてすべきことは、

- 開発フェーズにおけるプロセス改善だけでなく、もっと上流フェーズでのプロセス整備
- SPI活動(ソフトだけでなく、ハードやシステム開発も含んで)が開発活動/組織活動として当然のように行われるようにするための活動
- 経営に直結するようなSPI活動の定義、改善に対するトップの理解を得る
- 海外のSPI活動組織/メンバとの交流や情報交換の活性化
- SEPGの適格者の要件を決める

—JASPICに期待することは何か？

- 今までの活動の継続
- 発展拡大(CMMI中心からのストレッチ)
- 社会貢献



日本SPIコンソーシアム 10周年記念イベント

パネルディスカッション

ご協力有り難うございました。